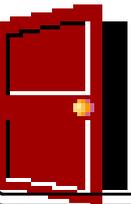


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年9月7日 文責 渡邊

## 『読書推せん文コンクール』の作品紹介！最終回

今回は、第5学年、第6学年児童の作品を紹介いたします。

第5学年 長田 琴美

◆すすめたい相手 イヌの本音を聞きたい方へ

◆本の題名『イヌがおしえるイヌの本音』（朝日新聞）

あなたは犬が好きですか。犬は「ワンワン」としか鳴かないから犬の気持ちが分からないと思います。ごはんをあげても食べなかったり、仕事をしているのに犬が体を近づけてきたりしませんか。犬がかまってもらいたいときにかい主さんはおいはったりしちゃいませんか。そのような行動から、むしされたと思ってしまいます。でも、もう犬にマイナスな思いをしてもらいたくないと思ったあなたは、「イヌがおしえるイヌの本音」を手にとって読んでください。その本の中には、犬がかい主さんに伝えたいことが130ものっています。かい主さんは、「イヌおしえるイヌの本音」を読んで、イヌの本音をきいてあげてください。

※動物を愛する優しい気持ちが伝わってきます。犬や猫、小鳥等のペットを飼う家庭は多くなってきています。多くの家庭では、ペットを家族の一員として大切に育てていることでしょうか。しかし、残念ながらそうとは限らない環境で生活しているペットもいるのではないのでしょうか。書き出しの読み手に対する問い掛けがよいですね。「あなたは犬が好きですか。犬は「ワンワン」としか鳴かないから犬の気持ちが分からないと思います。」ここが契機となり、『イヌがおしえるイヌの本音』（朝日新聞）を読んだことが想像できます。そして、これが「かい主さんは、『イヌおしえるイヌの本音』を読んで、イヌの本音をきいてあげてください。」に結びつくのです。動物を飼うことに対して、飼い主には大きな責任が生じます。動物の本音を聴くという姿勢はとても大切なことであると強く感じました。

第5学年 山崎 一輝

◆すすめたい相手 海の生きものをつかまえたい人へ

◆本の題名『海の生きもの つかまえたらどうする』（偕成社）

みなさんは、海の生物のどういうところが好きですか？ぼくは生物によって、とくちょうがあるとところが好きです。ところで、みなさんは、海の生きものをつかまえたことがありますか？ほとんどの人があると思います。でも、つかまえたことのない生物はいるはずです。そんな時に、『海の生きものをつかまえたらどうする』という本を見たら、かんたんに海の生きものがつかまえられるようになるでしょう。

この本には、海の生きものをつかまえる時にじゅんびする物やふくがかいてあります。また、岩場でこのような生きものがとれるんだよということがかいてあります。だから、この本を見て、海の生きものをつかまえてみてください。

※5年生は、今年自然教室で、神奈川県真鶴を訪れ磯の生物観察を行いました。その体験活動がこの推せん文に生かされているように思われます。自然教室では、いろいろな磯の生物に触れることができました。そして、生物への不思議さをいっぱい感じたのではないのでしょうか。体験活動と読書活動がリンクした素敵な作品です。

第6学年 坂下 紗羽

◆すすめたい相手 元気な毎を送りたい人へ

◆本の題名『水と健康 水で生きている体と心の巻』(株式会社かまくら春秋社)

私たち人間は水分をとらないと急にたおれてしまったりします。そもそも水は命と健康に欠かせないものです。一人の体重が30キロだとして体の中に21キロの水分が入っています。水は酸素と栄養素を運びます。血液にふくまれる水分が少ないと血管がつまったりして病気になってしまいます。気づかないうちに体の水分がへると、めまいや頭痛やはき気がしたり、ひどくなると頭がぼうっとしたりします。こまめに水分をとりましょう。

今まで私は、あまり水分をとっていませんでした。でも、この本を読んで、水分をとらないと急にたおれてしまったりすることを知って、ちゃんと水分をとろうと思いました。元気な毎を送りたい人はぜひ読んでください。

※暑い時期になりますと心配されるのは「熱中症」です。学校でも、「熱中症」対策を呼びかけ、安全に生活するように呼びかけてきました。だから、今回この図書を手に取ったのでしょうか？私たち人間の体の多くは水分でできています。そして、その水分は酸素や栄養素を運ぶ大切な役割をすることを読書を通して知ることができたことが伝わってきます。「今まで私は、あまり水分をとっていませんでした。でも、この本を読んで、水分をとらないと急にたおれてしまったりすることを知って、ちゃんと水分をとろうと思いました。元気な毎を送りたい人はぜひ読んでください。」と結んでいます。読書から得た知識を自分たちの生活に生かそうとする思いがよく表現されています。

第6学年 加藤 壮祐

◆すすめたい相手 世の中をより良く生きたい人へ

◆本の題名『メシが食える大人になる世の中ルールブック』(日本図書センター)

この本は、世の中をより良く生きたい人へおすすめしたい本です。なぜかというたとえばだれかに自分の悪口を言われたからって、自分で「ぼくなんか…」「わたしなんて…」などと言ってしまうと、その言葉通りの人間になってしまうなどという内容がたくさん入っています。それに、この本を読んでいけば後でくせになり、周りの人がまねをしてどんどん良い内容が広まっていくと思うのでとてもいい本です。だからぜひみなさんにも読んでほしいし、ぼくもじっさいに行動に表して、そして、低学年がしっかり6年生を見て、見た人たちがほかの人たちに広めていってほしいです。

※桑村小学校の6年生は、皆がとてもよくリーダーとして活躍しています。私が感心したできごとは、夏の日差しの強い日、1年生から6年生までの小グループでの外遊びの事です。6年生は、鬼ごっこを皆で取り組むときに、その行動範囲を木の影があるエリアと決め、遊びを皆で楽しんだのです。昼の放送で教師から「熱中症が心配されます。外で遊ぶときには安全に気をつけて遊びましょう」という呼びかけに応えたものです。「周りの人がまねをしてどんどん良い内容が広まっていくと思うのでとてもいい本です。だからぜひみなさんにも読んでほしいし、ぼくもじっさいに行動に表して、そして、低学年がしっかり6年生を見て、見た人たちがほかの人たちに広めていってほしいです。」と推せん文を結んでいます。これについても、経験と読書が有機的に結びついたことが分かります。きっとこれまでも桑村小学校では、6年生のリーダーとしての強い自覚とその行動が、全校の友達を上手にまとめてきたのでしょうか。自分たちでよりよい桑村小学校を創っていくという姿勢をこれからも持ち続けていってほしいと願うところです。

第5学年、第6学年児童の「読書推せん文」はいかがでしたでしょうか。紙面の都合で全員の作品が紹介できないことが残念です。今後も、体験活動と読書活動をつなげて、「豊かな感性」と「深い思考力」の育成に努めてまいります。どうかよろしく願います。